

【新品種・新技術の確立支援事業 平成30・令和元年度】

実施機関：茨城県 県南農林事務所 経営・普及部門
 農業総合センター 園芸研究所
 農業総合センター 専門技術指導員室
 協力機関：水郷つくば農業協同組合花き部会 (株)大田花き

グラジオラス「常陸はつこい」普及の手引き

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル・マルチ促成栽培	◎ 〇 ————— 〇					■						
マルチ促成栽培	===== ◎ —————					■						
露地季咲き栽培	===== ◎ ~ ◎ —————					■ //						
露地抑制栽培	===== ◎ ~ ~ ◎ —————					■ //						

◎定植 〇トンネル //遮光 ■採花 ==球根冷蔵

<球根サイズ> 2~3等級
 3~4等級
 4~5等級
 2~3等級

品種特性

- 花色がサーモンピンクで、黄色のぼかしが入ります(図1)。
- 花径10cm程度の大輪系品種です。
- 露地季咲き栽培で75日程度、促成栽培で120日程度で開花します。極早生の品種で、促成栽培では5月出荷が可能です。
- 促成・季咲き・抑制いずれの作型でも栽培可能ですが、梅雨明けから9月出荷の季咲き作型では、穂焼けが発生しやすいので注意が必要です。また、抑制作型では切花長が短く、開花率が低くなる傾向があります。



図1「常陸はつこい」

球根準備

- 2~5等級で、10aあたり2.7~3万球を目安として準備します。
- 入手球根はすぐに取り出し、腐敗球を取除いてホーマイ水和剤に浸漬(200倍液30分)します。
- アザミウマ類防除のため、植え付け時にオルトラン水和剤に球根を浸漬(1,000倍液10分)します。
- 球根を貯蔵する場合は、球根消毒後2~4℃の冷蔵庫で、過湿を避けて貯蔵します。

定植準備

- 土質は特に選びませんが、日当たり、排水の良い圃場を選定します。
- 保水、通気性を良くするため、ブラウでの深耕や有機物の投入(2~3t/10a)を行います。田で栽培する場合は過湿を避けるために高畝とし、暗渠や明渠を設置することが望ましいです。
- 同じ圃場では4~5年間は連作を避けます。やむを得ず連作する場合は、土壌消毒を行います。田畑輪換を積極的に取り入れ、米との輪作(2年間は続けて米を作る)を行うなどの対策をとります。

表1 標準施肥量(kg/10a)

成分	総量	元肥	追肥	
窒素(N)	15	10	2.5	2.5
リン酸(P ₂ O ₅)	20	20	-	-
カリ(K ₂ O)	20	15	2.5	2.5

施肥

- pH6.0を目標に土壌改良資材を投入します。
- 元肥は定植15日前までに施用します(表1)。
- 追肥は本葉2~3枚頃と本葉4~5枚頃、肥料が不足気味の時に施用します。

表2(参考)「マスカリーニ」9月定植における土壌水分と発芽揃い、花芽形成率の差

処理区	発芽率(%)	発芽揃い(日)	花芽形成率(%)
乾燥区	100	30	33
湿潤区	100	14	53
灌水区	100	20	56

定植

- 定植床を90~120cm幅とし、株間15cmの6~8条植えとします。4等級以下の小球では多少狭く、また、ハウスやトンネル栽培では株間を広く取ります。
- 土壌水分量に気を付け、乾燥している場合は発芽揃いにならないように、定植後に十分灌水します(表2)。
- 本葉4~5枚頃、土寄せやネット張りを行い、倒伏を防止します。

促成栽培（表4 図2）

- 促成栽培では定植後にマルチを張り、トンネル被覆します。発芽後マルチに穴をあけて芽を出します。1～2葉期と5～6葉期は低温によりプラスチックになりやすいので保温に注意します。発芽までは日中30℃、発芽後は25℃を目標にし、出芽以降は十分な換気に努めます。トンネル除去は晩霜の無くなる頃の無風曇天日に行います。

抑制栽培（表5）

- 高温期の定植では、冷蔵庫から出庫後、球根を日陰に1～2日置き、高温に馴化させてから定植します。
- 定植時期が遅くなると到花日数は短くなりますが、草丈が短くなり、ボリュームが減少する傾向があります。また、生育後期の低日照や低温によりプラスチックが起きやすくなり、開花株率が低下するため、8月中旬までには定植を終えるようにしましょう（9月初旬定植では、採花株率が50%以下となりました。2019年データ略）。

表3 季咲き栽培（H22～26年平均、笠間市安居）

品種	到花日数	切花長 (cm)	花穂長 (cm)	小花数 (個)	花径 (cm)
常陸はつこい	75.6	114.0	52.0	15.9	10.0
常陸あけぼの	76.4	116.1	53.5	14.3	8.7
トラベラ	91.8	114.4	53.0	15.5	10.2

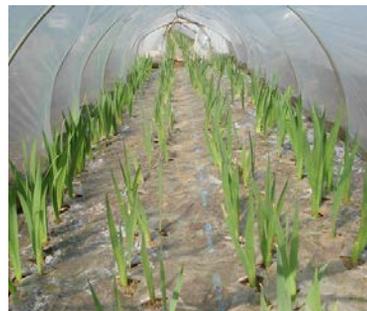


図2 トンネル・マルチ栽培の様子

表4 促成栽培（定植：2013/1/23、笠間市安居）

品種	開花日 (月/日)	到花日数	切花長 (cm)	花穂長 (cm)	小花数 (個)	花径 (cm)
常陸はつこい	5/24	121.0	96.0	52.0	16.0	10.9
トラベラ	6/1	129.0	112.0	58.0	17.0	11.0

表5 抑制栽培（定植：2018/8/17、土浦市大畑）

品種	開花日 (月/日)	到花日数	切花長 (cm)	花穂長 (cm)	小花数 (個)	花径 (cm)	開花率 (%)
常陸はつこい (2等級)	10/23	67	77.4	36.3	13.6	8.9	75.7
常陸はつこい (3等級)	10/23	67	76.4	34.5	12.7	8.9	74.5
ハンティングソング	10/23	67	96.8	37.6	12.5	9.2	96.6
ソフィー	10/26	70	94.6	40.4	14.9	9.9	89.3

留意点

穂焼け症状が出やすいため、7月下旬から9月の高温期に出荷する作型（5月から7月上旬定植）の作付けは控えるか、遮光資材を導入してください。

- 健全な球根を用い、連作を避け、窒素肥料をやりすぎないようにします。過湿は病害の発生を助長するため、密植を避け、排水を良くし、残渣を適切に処理します。
- 地上部には赤斑病や灰色かび病、地際部には首腐病、菌核病などの土壌病害が発生します。初発を見逃さないようにし、初期防除に努めましょう（図3）。
- ウイルスの感染を防ぐため、アブラムシ類やアザミウマ類の防除を生育初期から徹底しましょう。



図3 赤斑病 病徴 灰色かび病 病徴

- 切り前は第1～2小花の蕾が見え始めた頃ですが、高温期にはかために切ります。
- 茎がやや細身であるため、調整中に茎を折らないよう注意しましょう。